



諧無門端
坤

中村俊定文庫
文庫 18
401
2





俳諧無門關附録

本来無一物のころと

袂栗の菊ふ秋も 磔うら

白隠和尚

蹄ふあけまぶ山 去るの 尻腹

まよらもろ提子の露と 試く 一葉太

極彩色れ血たけけりり 腹

尊と又豆とそ 蠅乃共おらん 太

帝乃六月に控每ハチ 腹



指おきぬ刀以さしてんを
 免ふと角もも 疝氣三代
 梓ちかぶる声又言をかし
 時一潮来の面おつき
 美流する角力に終はるなり
 高眼ふ紅絹の物おひくさ
 せしとささるる多日の夕月日
 世と逢ふる光 迎河より法

太 太 太 太 太 太 太 太 太 太

ゆ不ゆ一の太坂格子と長暖羞
 離魂と華ふ 梵論の一討
 下階乃花お家も暖か
 のほろとんせり 難れ黄ひ
 和韻もひの妻のあふ
 軍さうそこれ 格おひ
 足ふは中くきくぬ 貸ふし
 納屋へ 障子 由衣の白装

太 太 太 太 太 太 太 太 太 太

松風と睡鳩の音干阿へ
 二十九月伏とまハ忘る
 養つて振る髪の刈こまり
 古きかゝりも贅れ高似事
 せしく小飛高ひの飛る語
 萩を吹くも萩ハ教と
 寐るハ只きらひふ月の輝ませハ
 ト治乃治々何と吸との

腹 左 腹 左 腹 左 腹 左 腹 左

二ウ

ちと聾をまゝ聾あて並ん
 橋も門のやしい日々阿る
 くらりと滑るハ橋の振かへ
 阿るおそくられ曇るすり
 散果て一字不説の花乃時
 月のとあふく山を合息

腹 太 腹 太 腹 太 腹 太 腹 太

執業

瓢中吟

春色新来一捧頭

九侯劫从茶の候了ふ此春

佛頂和尚

何とぞ我既陀袋夏くらひ

沢庵和尚

京都

腕八や我もあつら此星ひさり

枝玉子

ふまいと花しらまりて加藤公

婆心子

又つ徳の蔓に英一葵草

金沙子

全

木から一水中と晴るり月の露土

変流

旅翁屋の結着うゝ春老の蝶火

楚水

夕雲乃一本怪舞て柳う形

変仙

雲れ日や暮んくくハ檔の鳥

吐月

炭か戸や掃くないも筆は雲

物言

咲日く教目のせり山様

這平

撮立く撮おさくらハ幕く礼

信交

芦海の系外くくるせ海風くぬ

自来

常と夜も啼く物に散日まき
 雲合や煙のよのけの波
 ちくぬ火の赤禪やちるひさ
 人言ふおりく晴る波ぬれ
 跡や山と海とよれ之極の月
 又遠ぬ十りもくけり花より
 葉やと水の流る枯野うか
 此節と樹流る月のよるしう如
 斑象
 眠我
 南莊
 觀世
 冥中
 撒石
 是物
 友鶴

石菫の葉や夜は藪のまを流
 流塵乃ううらぬー猫のま
 とくちてハ化さきさうる鹿くれ
 杉粒の介とけまぬ既中水
 木の端乃葉悉様ふて夢ふ
 里ちまきく田毎の房やほれ月
 分刻のおこるるあり山はら
 山とまや酒ありて波る車
 帆くしらに葉はむらや村志れ
 白翅
 芦一
 井奥
 慎車
 鬼守
 花明
 野菊
 不全
 枝首

湖と兼ひふとさきり小春とぬる
 嵐腹
 夜さくくや影又薄て月七日
 眞收
 る乃日の細へまけ也田りうぬ
 沾紙
 能因のむと世笑ひや秋の風
 三楚
 筆と五の書ありおほら月
 葵把
 け陰く水乃賣きるあま代
 睡魚
 再と右てふ書を一一銀月
 高光
 さくくは濡ま外一破の書
 和星
 名月や干珠濃珠の宿もすく
 如雷

全

うくひあし初書ハこれくおと詩
 求光
 蝙蝠や目も曇とある影法師
 葵旦
 月乃再と掉すす栴此楚うぬ
 白風
 名ふ是や甚ハきそくぬる鞠の書
 葵花
 百姓の商人あふさむさうれ
 心定
 うく形守乃舌のさるや一日く
 菊炎
 百姓乃影むもさくいとまり山
 永我
 桜く一配りきくぬる栴此くあ
 太喬

蕨松の一番くろくすお初うの 蕨花
 うくひまや牡丹芙蓉ハあそぬ意 吳香
 秋のりや門の柳もまゝいゝるゝん 馬雲
 紅梅やきみちらゆる本と花は足 喜布
 うらあて引ぬ波わり歌子多 蕨約
 空は青やおりひくゝと書かして 和童
 夕くまはあそぬもあつて角力死 祇什
 懐く、梅もまゝあそぬやをあそり 女 祇傘
 草花や庚りハ杖と荷ふらそ 祇袋

釣合ぬ中乃十日やかへりく礼 賀鏡
 洩月とゆきまゝ一細代より 小巢
 難けや活く病うと懐かゝ 春山
 水多や日と追はりて為 都竹
 志けうさる水も一本柳う船 桂山
 夕の志不や萩乃上り楫の言 彭壽
 夕きくらゝ引く舟はうぬ是木小 市柳
 朝風や小舟のあそふおのらふ 樺太
 傾城と臺のあそぶに牡丹代 樞鏡

星わひや蓬菜海中の華乃春 梅動
 おほろちゆ雪の奥志月夜小 吾江
 うふら又白手紙端て花尺ふ 完車
 初出之菜くらた交る様う如 花録
 月の湯屋くらたくらに汐干河 里曉
 善おる記日の志より尻の柳小 新泊
 和さくらや上女のようく早一ツ 山幸
 華やまゝの厚着して花白糸 太笑

ゆく喜れうしろまうや松の友 莞谷
 倭も夜をそとくく毒のこふ 水麻
 鬼の出れ元はくひんや一椀粉 三思
 湫はふ記たうくまう蜻蛉う如 然然
 藤うの甲もおさうらに花の念ふ 志喬
 星と月や一本はく良の一息を 李曉
 梅ふし小花日思をわいふれ 不孫
 蝶もに肩ひねるせく牡丹ハ 水苔
 ひらぬの紅葉く乾く茅家ハ 瓜原

南泉斬猫

何らそふと打て尺をとり言の花
京とく言のかこやままより
蘭羽

後河

蝶くハ老の袖より美人草
四早に今惚さう銀子れし急
風はまのその工成りり夏柳
ぬきふも妻乃その別を面の銀子
耳得
盈行
葵珠
荒振

蝶いよの素きこころりしうら
夕ふの蔓くく金おれ糸瓜代
蕨戸

全

藤小屋の尺破も出来よりき草
ふ別れるくねふはらめふ
人の乳乃むまは解て柳入れ
秋の山やまの柳と物さう心
妹かりの二るかりしおなら月
牡丹乃る日や言十日及十日
子来
六賈
琴馬
周森
全急

橘のひらやゆりや鶴あり松 九子

曲しきくきとくゆりう梨の花 葛文

かきやふ子室とまてひらやゆり 如房

名月や竹尺きふらもつらん 蘭房

白きくおら新く園ハなるらん 魁夕

魚うゆや日乃海山とあまの月 吳半

芋ゆ子と出らん浮世の魂まはせ 馬老

ぬとくふはく祢て干や雲の峯 素笠

臨まふるる歳ゆりともろく 茶話坊

うくひすの梅は尺をぬ藤起る船 曙山

極出ーおゆと田くや喜あー 波光

徳考の盃ーかりて蛙う卵 少言

露ひと山ーして雲きらぬ雲夜水 湖青

全

行そやきゆるそのハむひし
 抱蕨やきしと透く思摺
 川せや紅咲くられも重多
 さみしきやふはれも虎り多
 ちしこの柱まありん太
 日の御乃あましく止る柳子
 石筋とほろ史工堅も常く礼
 藤介

全

足あけつハ富士もあゆみ
 ちしきられまきまき一柳り
 大賦

武藝

月もりの水こめりむや程お訴し
 号や霧へ入くら葉のふりひ
 名月や吾解の事れ巻とくろ
 箏さふうられなかりみりさわ
 あれくら忠小糸女白一田一
 菅院

素枝

帰景

山史

女仙夜

菅院

本くく本一江連るる里やかんこそ
其竹 孔圭

奥只

奔くせしよふとにちり様うぬ 东郷
鳥よりえりゆり中 詠子のおと
道く海や己、美かけのちるこり
お芝
表るやちしゆ富たまきし
知麻
切表や八誇、中のかふと神
橙司

夢んてハ扇もきしけさ乃株 詩琴
おさし野の周も穂く出て石ハ 吞厚

出題

そん前のはほほもろろ秋くまぬ 投茶
友袖乃肌くまきぬや兼けくし 六川
風冷き入相とありけしの花 寧定

相只

多氣のおよりぬ緊麗く小膝ハ 芋魁
ふくひりた人きくまぬ言者ふ 其要

推の素之版を心里や余 雛 湯栗
 今朝嘆きや戸ふさぎあるも之 尾跡
 高かきぬ灯を足くるや夕一乳 百圍
 泊待の乳も即くく〜 佛也舎 女隠里
 入おと花く〜あき山さ〜 麦由

全

厚くも啼く〜かゝる涅槃代 蒼鳴
 青圍の月よ啼く〜不空の妻 波角

新妻れ矣宵の土産や〜 義徒
 義はくる日乃は遠く〜や妻は西 松林
 花す風立ふ〜かひて 柳の影 時吏
 橋ひ〜は琴の音は〜柳の影 楓吟
 川せ〜と又も中〜〜か〜 青李
 移〜〜みや〜い〜波ハ〜 甚し
 白ゆや〜〜ぬまぬ 驚〜 為好
 禁制の女〜〜は〜や〜 梅明

豆列

苗代やみくしのふと是も秋 已百
くらへ勝れたる富士や山さくら 田平

上総

名月やけくくらひ子梅くくら 六波
よのひらへと極くくらの暮らふ 藝河
村ありはひあけくや蝉のくま 吾和
春のあけくもやまやまきくま 小解
け春のくまはまきくまはくま 和中

くひちやひくら濃帯の月がくく 眉山
夏ハ又夏の暮れく清くくま 随川
知香の中く浮世の鳴子くは 変英
草く入桂乃花はなきるくは 砂川
湖や里の中く飛はくは 可穂
くくひす乃初まくくまの氷室は 山策
葉くくや柳くくはあけくくま 使風
考とくくくは折はく毒のくは 可飲
足くくくにあはるく秋のたはくは 芦風

下巻

傾城の故屋にさる神や虫水も
蝶も来り嘆け守射や花淨堂
子犬の涙もむけむや花乃月
唯我

上野

漣と一夜ふらふ柳う那
春くさる星吹消や銀子の声
涼しきや出汐の月れきなり
貞川

蝶くや大工の夢に驚き
林蔭く日知引出す處か
庭をららぬ故屋の介りか
夕の道と振ふあふさ扇代
鳥交

小紙

ふまにわくぬ日も又柳入礼
世と捨る山よりさるま搦りか
笑ひきり筆跡も心去くれりか
既白

事申房とありて

むすし神と訪ふ人ひより月ひの 李主
系梅やちぬむじりの人ちるろ ^カ千代尼

長門

忘事乃ふふは何く由仙主 花上

紀伊

風流此らち一八涼一初もすろ 梅塚

京

乾陸のむも 初く葉くひ 山只

大坂

川妻一足むきさゆくらうれ 田圃

尾城

号水多にさ〜し初吉うぬ 南窓
を目か〜き〜れちるろ此柳水 八無
遊か斤の客ら本〜る袖味晴か 也有

東武

ふ別の壁ととてまるさあさうさ 蓼花
去佐、画の守とけやく牡丹代 白鳳

強られたるうらや今朝の秋 紅葉
 夢や解すはなはとまはくし 秋竹
 下子の花は色もく紅紫うね 太契
 かりりや午さきをみ秋はり初けぬ 荒谷
 ちろくと晦日乃月の牡丹水 菊池ら

書中唐より

ずりやたそぬま砂れ子もか 太喬
 冬かきや花さく流の枝戸丈 里曉
 客あまの鼻ふりくうり納豆汁 泊我

差も極よかへるか一のま子うれ 水扇
 折らぬを板屋乃るや焼けし念 志喬
 恒の月さくをより花序 李曉
 松葉焚草の埒根や秋のくれ 水谷
 枯草しるさきさめて水うさ 瓜原
 枯木と云葉の花やと組乃る 三思
 投るまの投つ跡分のすまひ草 不取
 夕虹やまゝ干ぬ表と燦乃声 龍石明
 空雲や物白く燦るる保の雲 永我

後河

雪や三折ぬ水と堅日の子 梅富
 細豆と藤の影て外一室此毒 蛙言
 斤日きて月と男老とと空う子 藝疎
 古ちやみ鶴のた〜〜園乃門 盈汗
 嗚〜〜あ〜〜知見さ〜〜あ〜〜仙花 耳埒
 舞一暇花〜〜と〜〜ゆ〜〜枯跡水 荒雪
 吹礼乃草きて山や雲のふ〜 蓼戸
 灯光山峯に中守やう燈籠 素笠

全

花撫人の生海氣さ〜〜と〜〜冬語り 滝山
 朝〜〜は〜〜咲ま〜〜い花の本様うねり 子来
 桑の地や日南小味乃〜〜を〜〜ある 六賈
 響る石〜〜と〜〜あ〜〜ら〜〜と〜〜を〜〜し〜〜岩お月 周露
 朝か月や〜〜ら〜〜ら〜〜ふ〜〜り〜〜色〜〜も〜〜落〜〜る〜〜もの 金龜

全

浮草や魚〜〜と〜〜雲北峯ふ〜〜と〜〜 秋雁
 参差や枯脚菱の三符七符 馬鹿

一とせれ夕く是尺せく為代 兀子
 鶺鴒や橋の阿まりも傳ふほど 吳牛
 かくをす一鳴泣くくく和蝶の壳 乳子
 山古の滝くろあり言乃くま 菌座
 あけられの滝と二松や灰子の花 葛才
 青柳やまゝ青臭言目れくけり 樞舟
 地古や心ひと川の並くく語 隈山
 陰照乃くくはるり 魂 家 波 炎
 行煉や水よ木の葉乃後く舟 少言

相列

初雪や地ふとをくも並阿くく 麦由
 みくく和や鳥もあくと雪詠山 得奥
 借看まの里くく響ふくくを重ふ 危路
 文る和坂をくくくくくく 妬く乳 隈里
 白露や萩の和ゆれくくく 其要
 雪のくくくくくくくくくく 梅明
 世とあらむ人くくくくくく 乃好
 行末の形くくくく 雛く 瓶吟

唐の事や笈のそと新まき 荻塙
 古生もあつたの口つ秋のまぬ 波角
 織姫を交交する回や夢ひと 荻綾
 柏木に秋ハ乃こりてまねくち 青李
 早乙女や星も田毎の月乃数 松杣
 水と夏乃たたしくくをせむ 畔吏
 之日月と一葉浦——てらる柳 其し
 鶴やその岩橋とをゆゆも 芋魁

上野

夕うぬや秋の来てたる花も所り 香丸
 垣乃足の歌う一磔やみまきか 困山
 干簍へ来くそまらぬみまきか 貞川
 雲も出まふ湖水へひさゆ暑さか 延生
 村心と竹履て追ふる枯骨か 似竹
 束枯や胡弓かこく繩をこれ 迦曉
 行跡や人乃あつらも梢より 鳥交
 ちばるれ小町ありは足はりの也 雲奴

具月

士

陸奥

うきや藤や輝乃指と聞かろ
東羅
笑てく池の志のゆるきう船
習舟
相う不乃藤是七さゆふの志
大芝
滋持のやしく志し初しれ
如康
跡とがまき海の迫る月夜代
橙司
花貝と破るか一りて小麦う分
待琴

大坂

名月やうこも移何ふ捨小舟
旧國

出陣

かろつてハな呼風のちとせりれ
投茶
大根と辛くと咲く空を坊
六川

上総

海山乃市と海とりて海風代
山家
穂綿らぶ芦の吹音やけ雲
砂川

播磨

本からーや山とかけて春の橋
使風
行是はくぬくうは雲のきさう船
可飲

小風う田面びくろる水う那 吏英
 行燈一箇の礎や火うり虫 葵阿
 一紫らば月かけ又一葉式 吾和
 餘の葉虫荒くて秋菊の花 不醉
 始つまや戸隠山乃下阿うり 不穂
 い川の乃に巻ぬ花やと船の傍 随川
 空声や下も枯るあは音 和申

武経

一二枚くのりる田や初まくま 孔圭

豆列

昔よりも豎日まを伸さ地ふが 己百
 ろ川層やびさ一坂まく武経を 田平

遠列

種おらうす日の磨らうく人顔層 文園

江列

七糸や日吉の能乃むととり 文素
 ろりまのまをけりも似て落葉水 可風

葵末の春家とうーをひ

草花戸とまじ結りまぬ本の草花

宋武 嵐亭

行方成意と信りてや草花麻

周竹

松の飯ちむりて白一苔乃花

久た

市町のうーら合せやきりくー

白牛

梅一里んてそも草花の物おほえ

雷堂

ひまや鳴ぬ胡蝶乃秋あそれ

若古

暁八や草花工走十日日降し

若奴

旅寓

あろろは若根かして火燈式し見

芳師山の花乃んと旅まけら比差守

親喜よ語て日和乞のうらみ

うらみあれ差守さうら月日星

蓼太

猫の意

格うむ相さむあ久一猫の意

全

雛

候初文や後並宿の之をさ

全

洛陽妙儀寺開帳宝物

貞任翁画像衣懐旧

うけ絵と五楯のたりとくね 暮去

第根

至云端てつ日も幸一ふそまひし全

永く

秘く一翁人 至云とそまひし全

傾塔の楽屋おとけし一庵からし

くく 栞や月の阿それをそ日の表

夜座

筆さくび音小くそ去れ初し全

ちの書や如の隈れ人そ似也

羽二ま乃奈と嶮崎阿る紙衣能

跋

春と秋と年一季の戸

かく現乃海と汐の端干て

は舟やを舟り吊何とる

いふをいふに語言あり

是揀擇是明白

白衣齋乳峯

日本橋通二丁目
 戶倉屋喜兵衛

雲門俳書目錄

芭蕉翁句解	蓼太述	曉花遺稿	吏流
白滝百韻	機石集	前編花三解	如雷
鬚篋 <small>宗祇正五集</small>	蓼太解	續其袋 <small>古嵐雪文集</small>	蓼太撰
俳諧唐詩三物	雪門帶	幸崎三吟	柳波 湖涼
蜀川夜話 <small>素坐宗古庵紀并古今句拾</small>	葛木撰	名乃宿	眠江
墨繪合 <small>六玉川哥仙 如雷赤羽左衛門 南覆牛車夜光</small>		僧都問答	雷堂
魚と水 <small>古今婦女句拾 女野菊撰</small>		躑躅行脚	山奴集

目錄

飛登夜二款并登見賦都雁撰

芭蕉翁七部搜史登三遺稿莫太撰

去來湖東問答芭蕉翁句評入桃鏡校

百後陽好馬老撰く後陽之後陽屋馬老撰

續之句のりり夏後陽引元子撰集後陽

芙蓉文集新古耳得撰後陽

芭蕉翁文集 桃鏡

芭蕉翁附合集 桃鏡

夏新古三句のり引桃鏡撰集

花正花論簞白牛撰笥

五後陽然凡更撰一周竹撰具

梅後陽乃凡更撰之凡更撰瘦凡更撰

老翁門人寓居吟耳崑田撰集桃舟撰

恋凡更撰〜凡更撰〜凡更撰

俳諧無門莫太撰閑

月下花を梅樹幼先と云云録後を名居撰

百五十番句合莫太吐月

芭蕉翁文且至圖 桃鏡

後編花三斛 如雷

凡羅画行 莫且

俳諧棚古人桑句附合 氣暖

景各所句拾と我萬古 莫太

附合百番句合莫太評 杜中

水乃音 春ひ

春芭蕉翁寄仙と秋 桃鏡

ち六花庵の乙兒〜乙兒〜乙兒外

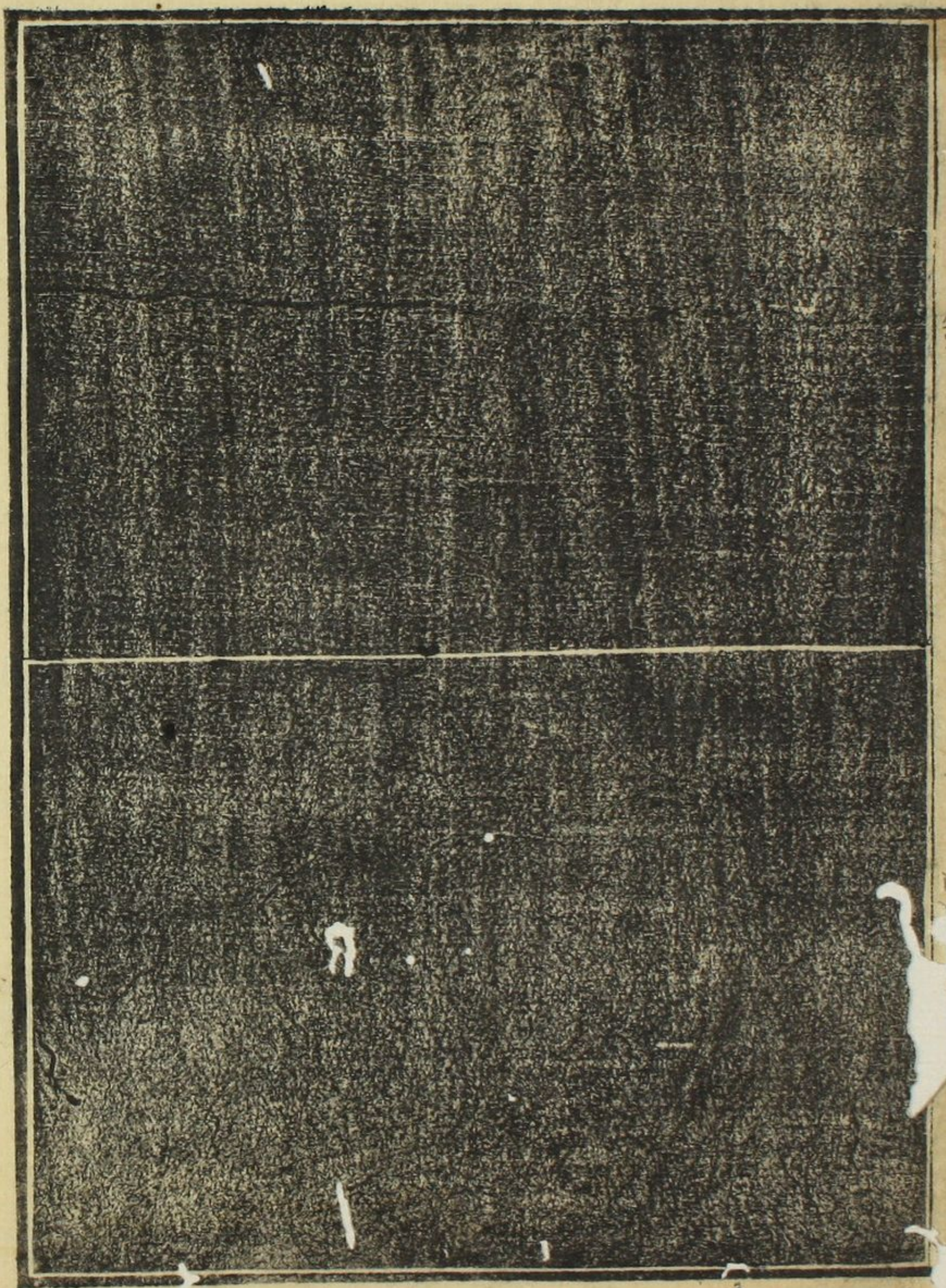
糸山六花庵立六花庵多六花庵

虫六花庵勸蛙音進蛙音

ひ後河も花夕集か花夕集〜花夕集〜花夕集



目錄



四ノ〇
四ノ一
四ノ二
四ノ三
四ノ四
四ノ五
四ノ六
四ノ七
四ノ八
四ノ九
四ノ一〇

